

顎下型ガマ腫に対するOK-432注入療法

新潟厚生連上越総合病院

耳鼻咽喉科 五十嵐良和

**顎下型ガマ腫の再発症例に対して、
深瀬らのOK-432注入療法を施行した。
その治療経験を報告する。**

症 例

18歳男性。

12歳時、右顎下型ガマ腫を新潟労災病院において手術。被膜がはっきりせず、嚢胞を可及的に除去した。

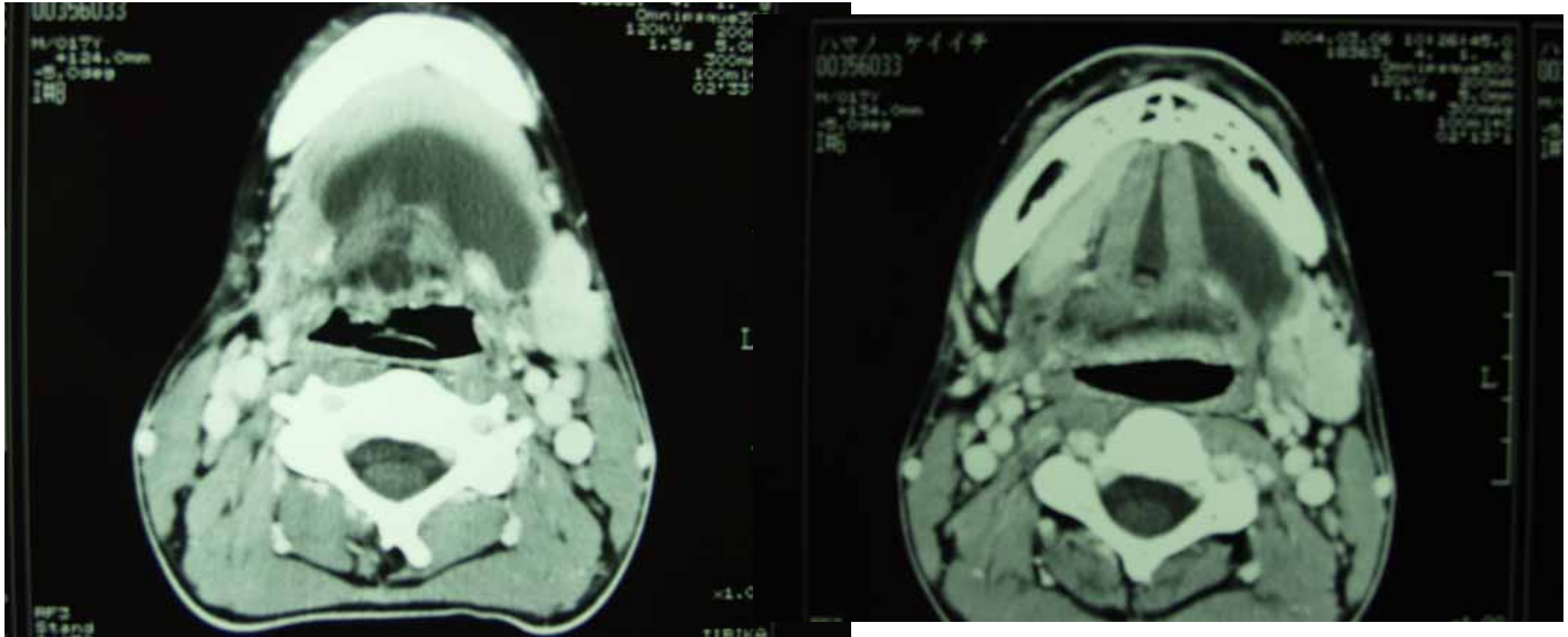
平成16年3月(6年後)、反対側の顎下部腫脹を生じ、当科を受診。

局所所見



息んだ時、左顎下部に無痛性腫脹を生ずる。

CT 所見

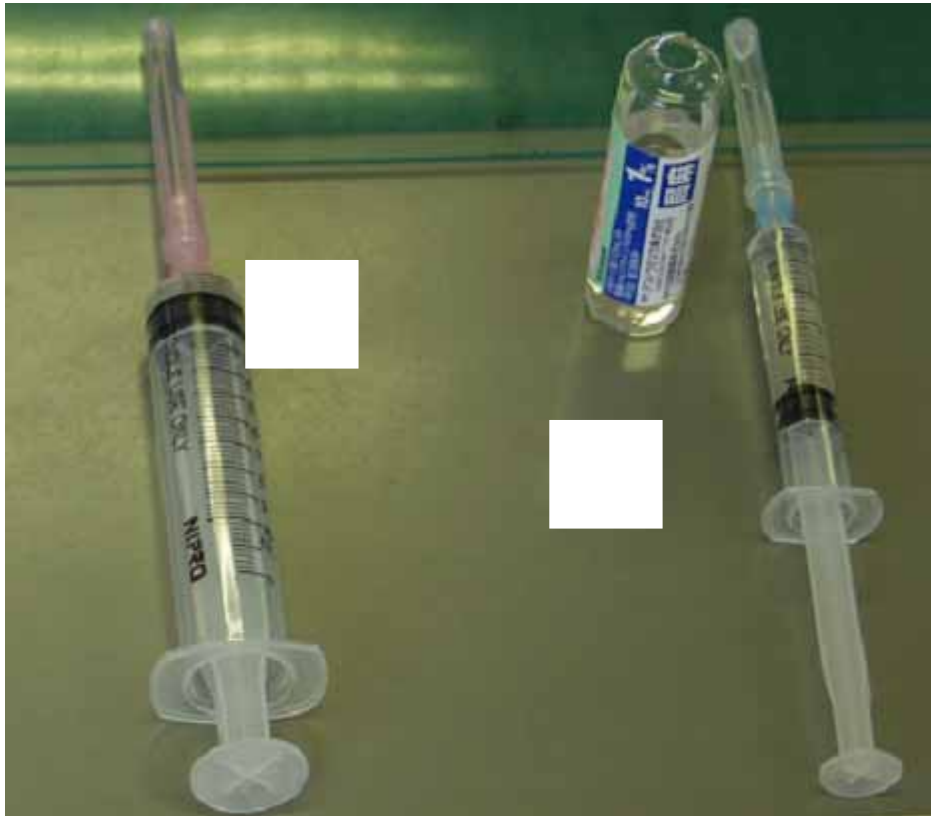


筋層内に被膜を伴わない嚢胞像を認める。

準備

1. 局部麻醉

2. 内容吸引(18G)



3. OK-432注入

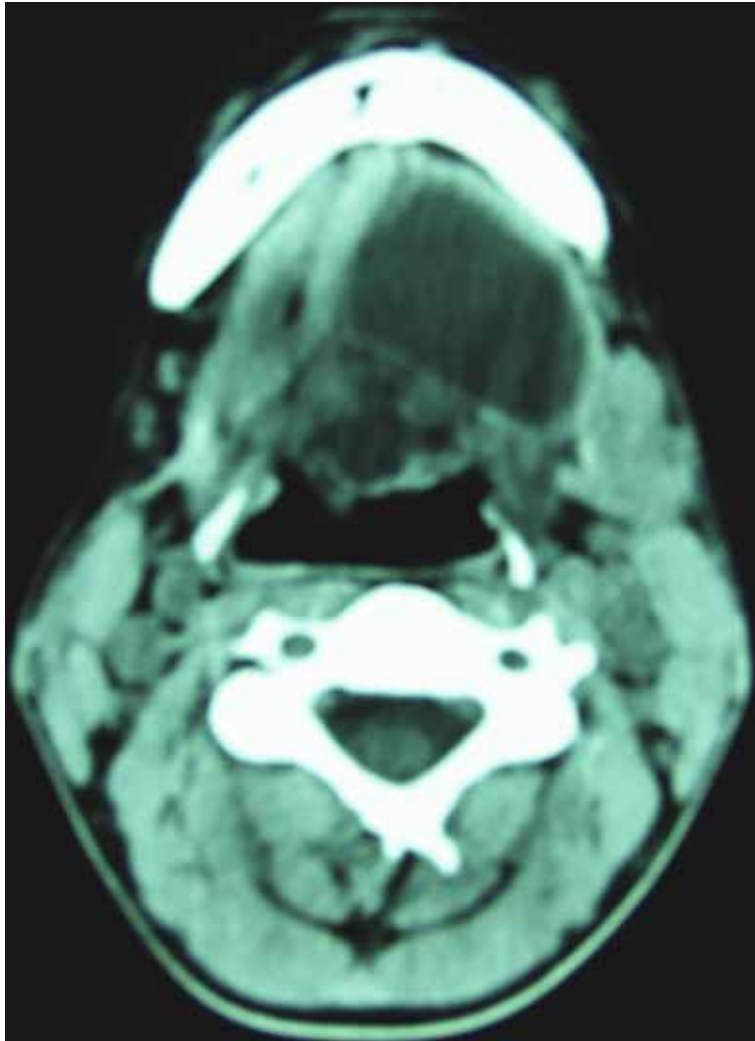
嚢胞内容と治療経過

内溶液を11ml吸引、
1KEのOK-432を同量の生食で希釈し注入。



注入2日後から3日間、局所の熱感と腫脹を生じ、
その後、徐々に縮小(現在進行形)。

治療後1週の所見



頸部腫脹は硬く変化(縮小傾向)。

CTでは被膜らしきものを確認できる。

OK-432の成分と作用

OK-432(商品名:ピシバニール)は
A群溶血性連鎖球菌の弱毒の自然変異株
(Su株)をペニシリンで処理した製剤。
注射した場所に強い炎症を引き起こし、
種々のサイトカイン(免疫因子)を産生させる
ことにより免疫増強作用を表す。

OK-432の効果

OK-432を癌性胸膜炎・腹膜炎(癌のために、胸や腹に水が貯まる状態)などの際に胸腔や腹腔内に投与すると、腔内の癒着を促し**胸水や腹水の貯留に対して非常に有効**。

また、OK-432を皮内に注射した場合、注射局所は強い炎症を起こすが、**瘢痕を残さずに治癒すること**も知られていた。

嚢胞状リンパ管腫への応用

これらの作用を応用したのがOK-432嚢胞内注入療法で、最初は嚢胞状リンパ管腫で始められた。

1987年、京都府立医大の荻田らはOK-432を嚢胞内に注入する治療法を発表。本治療法は「**嚢胞状リンパ管腫に対しては効果が手術よりも確実でしかも安全である**」ため、現在この病気の第一選択の治療法となっている。(1995年保険適応取得)

ガンマ腫、その他への応用

1992年、深瀬らがOK-432嚢胞内注入療法を初めてガンマ腫に応用。以来、80例を越える頭頸部の嚢胞性疾患に対し本治療を施行。

その成績は、ガンマ腫・耳血腫・舌嚢胞・正中頸嚢胞などでは極めて有用で、手術に代わりうる可能性大と期待された。

治療成績(深瀬ら)

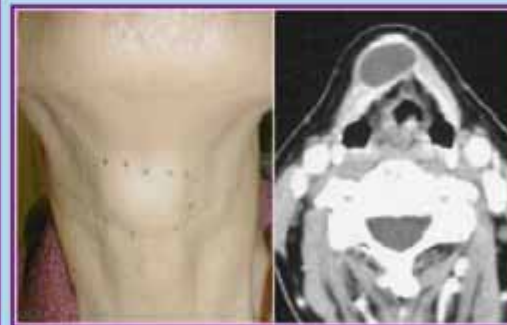
OK-432 治療のまとめ

疾患	例数	消失	縮小	無効	有効率
ガマ腫(口腔)	26	19	6	1	96%
(顎下)	17	16	1		100%
舌・口唇嚢胞	4	2	2		100%
耳血腫	8	8			100%
リンパ管腫	6	4	2		100%
正中頸嚢胞	10	8	1	1	90%
側頸嚢胞	3	1		2	33%
癌随伴嚢胞	1			1	0%

適応疾患

ガマ腫(顎下型、口腔底型)、舌嚢胞、耳血腫、リンパ管腫が最も良い適応です。これらの疾患では我々の経験で90%以上の症例で嚢胞の消失または縮小固定が認められました。正中顎嚢胞では我々の経験では、10例中1例に効果不十分例がありました。側顎嚢胞は本治療の適応ではありません。

また、OK-432はペニシリンを含むため、ペニシリンアレルギーのヒトは適応ではありません。



OK-432 嚢胞内注入療法

治療施設にご協力下さい

このホームページを立ち上げて2年になりますが、患者さんからの問い合わせも増えており、対象人口の関係もあって大都市からの問い合わせが多く来ます。問い合わせの多くは、「自分の住所の近くでこの治療を行っている施設を紹介してほしい」というものです。学会発表を行っている施設を中心にご紹介をしていますが、なかなかご希望に添えないのが現実です。事実、私の医院まで、関東や関西から交通費をかけて治療に来ていただく患者さんもおります。1泊2日に来ていただき、あとは経過の写真を時々送っていただくだけで終わりの患者さんが多いのですが、追加の処置が必要になって、もっと近いところの患者さんであれば細やかなフォローができるのと感じる場合もあります。

私もいろいろ論文を書きましたし、「耳鼻咽喉科専門医通信」、「耳鼻咽喉科頭頸部外科」、「JOHNS」、「耳鼻咽喉科診療プラクティス」に書いたものはいずれも依頼原稿であり、それなりに注目はされている治療と信じております。また、一昨年出版された耳鼻咽喉科の手術書(耳鼻咽喉・頭頸部手術アトラス)にも、自治医大の市村教授から「手術拒否例や合併症で手術が難しい例にはOK-432が勧められる」と記載していただけるようになりましたし、平成14年11月号の耳鼻咽喉科専門医通信にも、東京女子医大の吉原教授から「ガン腫にOK-432は有効である」と書いていただいております。おそらく、学会発表をされている施設以外にも多くの先生がこの治療に注目し、実際にやってお下さっているものと思います。もし、その様な先生で、**我々の考えにご賛同いただける先生は、是非お知らせいただけましたらと存じます。**患者さんから問い合わせがありました時に、ご紹介するようにさせていただきたいと思っております。

この治療をされたことの無い先生にとっていちばんの抵抗となるのは、「そのような治療をやって治癒すれば良いが、もし改善が認められなかった場合には自分が他の医師から批判を受けるのではないか？薬剤の適応外使用になるので、何か治療中に問題が出た時の責任はどうなるのか？診療報酬も決まっていないう治療を行うことができない。」などとという点であると思っております。しかし、本ホームページをご覧いただければ、特に顎下型ガン腫においては、OK-432嚢胞内注入療法がいかに優れた治療であるかはお分かりいただけるのではないかと思います。もう、**顎下型ガン腫は外切開で手術をする時代では無くなったと思っております。**「まだ経験がないので、治療後の経過のフォローアップのみを試してみたいとおっしゃる先生」も大歓迎です。ご連絡をお待ちいたしております。

まとめ

顎下型ガマ腫の再発症例に対して
OK-432注入療法を施行した。

また、治療効果を判定するには時期早々
だが、深瀬Drのホームページが、治療を
おこなう上で非常に参考になった。